

もち餅つきより

— 2022年12月・港区 —

2班 陳亞柔さん (台湾)

私は日本語教室の人といっしょに「お餅つき文化交流会」に参加し、日本の伝統的な美食についてより深く知ることができました。このイベントで、美味しいお餅の作り方を学びました。手作りの過程でお餅の弾力と粘りを体験して面白かった。



さらに、お餅には人々の感情や情緒を表しているという意味もあり、日本の伝統文化ではお餅は親しい人々に贈られる贈り物としても有名です。このイベントによって、日本の文化についても深く理解する機会をもらえました

私はこのイベントで、日本教室の人と出会い、一緒にお餅を作り、お互いの文化や経験を共有することができました。とても楽しく充実した経験でした。



七夕紙芝居の1場面 五味さん制作

七夕祭りイベント

2班 佐藤やえさん

7月14日(金)、七夕祭りが開催されました。市岡日本語の七夕祭りでは希望の学習者さんに浴衣の着付けをしています。会場にある大きな笹にはたくさんの短冊が飾られました。世界平和を願う短冊が多かったように感じました。

バイオリンの音色、七夕の紙芝居、隆勢会さんの演奏……、司会の2人が会場の意見を聞きながら心地の良い時間が流れました。みんなで記念撮影する時は幸せな気持ちになりますね。

7月21日(金)、台湾からの学習者さんと勉強です。七夕祭りでは朗読をしてくださいました。台湾では旧暦の7月7日が七夕のようで、恋人の日ということでした。





市岡日本語教室 七夕まつりイベント 集合写真

日本の看護師をめざして

Cさん（中国）

私は中国黒龍江省で生まれました。子供時代は日本のアニメーションが好きで日本で働くことに興味を持ちました。大学では看護学を学び、1年生の時、「日本の看護師になり、日本で働く」というイベントに参加したことで、日本に行きたいという気持ちが高まりました。卒業後、日本に行くことを決意しました。そして、そのことを両親に伝えたと、父親は賛成してくれましたが、母親は反対でした。そこで母親を説得し、なんとか私の気持ちを理解してもらいました。

2016年、留学の資格で来日し、日本語学校や介護の専門学校に通いました。勉強しながら、病院で看護助手のアルバイトをはじめました。その後、この病院で正社員になり、今でも同じ病院で勤めています。今年（2023年）の3月には日本の准看護師試験に合格したので、今では、准看護師の資格で勤めています。ついに、日本で看護師になるという目標を



達成しました。

来日当初は、うまく日本語を話せませんでした。職場の同僚や患者さんがおっしゃったことをあまり理解できなかったのも、仕事が進まないこともあり、日本語が上達することをめざして、市岡日本語教室に通うだけでなく、家で教科書を読んだり、日本語の動画を見たり、日本語の音楽を聴いたり、いろんな努力をしました。

今年、来日して8年目になり、日本の生活にも慣れました。日本語をある程度は順調に話せますし、日本人の友達がいっぱいできました。また、同僚もとても優しいし、職場で楽しく仕事をしています。私は、20代の青春時代のすべてを日本で過ごしました。日本にいる間に、未熟な子供から経験を積んだ大人に成長したように思います。

私は、まだ准看護師で新人ですので、はっきりとはいえませんが、指導者が教えてくれて、自分も頑張れば、時間がかかるとしても、将来、私も優秀な看護師になれると思います。

新入生を募集中

- 市岡日本語教室は、金曜日に行っています。
 - 時間 よる7時から8時30分まで
 - 場所 港区民センター2階
- ※時間や場所は変更することがあります。